やまびこだより
No.152

令和元年 10月発行〈昭和51年12月1日発刊〉

小学生ボランティア新聞

社会福祉法人 ふれあいネットワーク
長野県社会福祉協議会

特集テーマ

介護ロボット参上！

伊那市社協の「なつチャレ」で 介護ロボに遭遇！

みすず四恩の家で大活躍のPepper（ペッパー）ソフトバンクロボティクス

会話のできるコミュニケーションロボット「ペッパー」は、ロボアプリを使うことで、算数や漢字クイズ、ダンスなど様々なことができます。施設の人気者です。

みすず四恩の家のお仕事を知ろう！

機能訓練指導員の小松さんから、リハビリのお仕事を教えてもらったよ！

足の指だけで新聞紙を丸めたり、広げたり、たたんだりする訓練を体験しました。

みすず四恩の家で働く 介護ロボット

介護支援ロボット PALRO（パルロ）
富士ソフト

介護する人が装着するロボットスーツのHAL(ハル)®　サイバーダイン

みすず四恩の家では、施設に来るお客さんや入居者のご家族を、介護ロボットがお出迎えしています。他にも歌や体操のレクリエーションでも、介護ロボットが活躍しています。

介護ロボットがお手伝いをしてくれるおかげで、介護の仕事をしている人たちは入居者と向き合う時間が増えて、お仕事に集中することができます。

介護ロボットがサポートをすることで、介護の仕事をしている人たちがより力を発揮することができています。

介護ロボットって、なに？

介護ロボットは「介護する人」と「介護される人」を支援する機械です。

日本は人口が減り、お年寄りが増え、介護の現場でも人手不足が進んでいるのじゃ。そのため、介護する人、介護される人の負担を軽くしてくれる介護ロボットが登場してきたんじゃよ。

介護ロボットに期待されていることは？

介護する人にとっては
- 心と体の負担が軽くなる
- 介護の質が良くなる

介護される人にとっては
- 自分でできることが増える
- 心と体の衰えを防ぐ
- 安心して介護を受けられる

こんなところを支えてるよ！

お散歩に行きたい → 移動支援ロボット
ふだんの歩行や移動を助ける

おしゃべりがしたい → コミュニケーション／見守りロボット
心をなごませたり、見守りをする

腰が痛い（介護する人） → 移乗支援ロボット
車いすやベッドなどから乗り移る介助の負担を軽くする

動作を楽にしたい（介護する人、される人） → 入浴支援ロボット / 排泄支援ロボット
お風呂やトイレでの動作を助ける

介護の仕事はロボットがいれば大丈夫だね！

それは違うぞ。人間でなければできないこともたくさんあるんじゃ。でも、人間だけじゃ大変なことも、ロボットがいることで助かることがあるということじゃ。

へぇ～、そうか～、ロボットだけでもダメなんだね！

そう、人間とロボットが手を取り合ってタッグを組むことで、誰かを支える大きな力を生み出せるんじゃ。ロボットと人間が協力し合う新しい介護が、もうすぐそこまで来ているんじゃ。

伊那市社協の「なつチャレ」

伊那市社協では、夏休みの福祉・ボランティアの楽しいチャレンジ体験として「なつチャレ」を開催しています。

こんなことをやっているよ！

●施設の夏祭りに行こう！

●スーパーで車いす体験！

●募金箱を作ろう！

●手話・点字体験！

などなど

特別養護老人ホーム みすず四恩の家

特別養護老人ホームみすず四恩の家は、居室を一軒の家として考え、入居者一人ひとりの個性と生活リズムに合わせてケア（お世話）をする「ユニット型」と呼ばれる施設です。

特別養護老人ホームとは？

特別養護老人ホームは、自宅での生活が難しい高齢者を対象に、食事やトイレ、入浴の介助、機能訓練、健康管理や日常生活上の世話などを行う入所施設です。

自分の家で毎日暮らすようなその人らしい生活ができる空間づくりを大切にしてます。

みすず四恩の家 施設長 田畑 幸子さん

協力：社会福祉法人上伊那福祉協会、社会福祉法人伊那市社会福祉協議会

各校のボランティア・地域活動の紹介

私たちの学校では、こんな活動をしています。

松本市立 島内小学校

地域に積極的に関わる

お年寄りとの交流や動物の世話を通して

地域の牧場のヤギの世話をしています。

島内小学校は、全校739名の松本市の中でも大規模な学校です。また、今年で開校133周年になる歴史のある学校です。島内小は昔から地域との関わりが深く、地域から学校へ情報が入ると、私たちが地域にどんどん出かけていき、絆を深めています。

毎年代表の学年が地域のふれあい広場に行って、お年寄りの方々と交流しています。一緒に体操をしたり、得意技を発表したり、劇を披露したりして交流を重ねています。最後に一緒にお茶を飲むときに、お年寄りの方々の笑顔を見ると、私たちも笑顔になるし「元気になる」「若返る」と言ってくれるのを聞いてうれしくなりました。

また、2年生は地域の牧場からヤギを借りて、世話をしています。以前はポニーを他の地区から借りていましたが、島内地区に牧場があることを知り、それからはヤギを借りていました。ヤギのエサをたくさん用意するのは大変ですが、ヤギがもぐもぐと喜んで食べているのを見ると「やってよかった」と疲れも吹き飛びます。

これからも、地域と関わりの深い島内小学校の歴史と伝統を大切に、地域へ積極的に出かけていって地域の方々とたくさん交流をしていきたいと思います。

大町市立 美麻小中学校

地域と共に美麻で学ぶ

自然豊かな美麻の地で、地域支援隊と学ぶ

美麻小中学校では、小学生と中学生93人が一緒に勉強しています。同じ学び舎で学習し、行事や集会も全校で行います。給食も全校で一緒にランチルームで食べます。

美麻地区は自然が豊かで、地域の方々と自然を生かした学習をしています。地域に住む「地域支援隊」という方々がいて、学校での授業や行事で一緒に勉強することもあります。朴葉巻きの学習では、学校の周りにある朴葉をとりに行き、花豆で作ったあんを中に入れて作りました。包み方やひもの結び方も教わり、おいしい朴葉巻きができました。

今年は美麻地区と美麻保育園、美麻小中学校合同で運動会を行いました。午前中は学校の運動会、午後は地区運動会をしました。地域支援隊の方々も来て、一緒にテント張りや会場の準備をしました。地区運動会では地区ごとにテントで応援をしたり、地元のパン屋さんが作るパンを使ったパン食い競争をしたりしました。

中学生になると地域の方と一緒に総合的な学習の時間の学習をしたり、浴衣の着付けを体験したりするので、私たちも今から楽しみにしています。

あの災害を忘れないで

長野県西部地震 災害の記憶を引き継ぐ清掃活動

鎮め観音像周辺の草刈り清掃作業

鎮め観音像の清掃

地震が起きた翌年、犠牲になった方々を慰霊し、平和な王滝村の未来を願い「慰霊碑」と「鎮め観音像」が建立されました。

王滝村立 王滝小中学校の取り組み

王滝小中学校では、長野県西部地震で犠牲になった方々の慰霊と、大災害の記憶を引き継いでもらいたいという王寿会（王滝村の老人クラブ）の皆さんと一緒に、20年ほど前から毎年、慰霊碑と鎮め観音像の清掃を行っています。

震災を忘れないために、また、王滝村の平和を願い、これからも王寿会の皆さんと一緒に心をこめた清掃活動を続けていきたいと思います。

長野県西部地震とは…

今から35年前の1984（昭和59）年9月14日に王滝村をおそった直下型地震。この地震によって、木曽・御嶽山の南側斜面が崩れ、大規模な土石流が発生し、王滝村では29名の尊い命が奪われました。

18歳までの子どもがかける「子ども専用の電話」
チャイルドライン
フリーダイヤル 0120-99-7777
困っているとき、悩んでいるとき、なんとなく「だれかに話したい」、そんなとき……気軽にかけてください。
★ちょっといいにくいことでも、名前は言わなくていいので安心して話してください。
★お説教はしません。どんなことでも、いっしょに考えます。
みんなにカードが届くよ。フリーダイヤルでかけてね！
チャイルドラインはみなさんの赤い羽根共同募金が役立てられています。

あなたのまちのボランティアセンターへ行こう！
どこにあるかわからないひとはこちらまで！
●発行／お問い合わせ●
ふれあいネットワーク
社会福祉法人 長野県社会福祉協議会
まちづくりボランティアセンター
〒380-0928 長野市若里7-1-7　県社会福祉総合センター内
TEL.026-226-1882　FAX.026-228-0130
電子メール　vcenter@nsyakyo.or.jp
ホームページ　http://www.nsyakyo.or.jp
公益社団法人 信濃教育会
〒380-0846 長野市旭町1098　TEL.026-232-6994
ホームページ　http://www.shinkyo.or.jp/
福祉の心 ふっころ 長野県社会福祉協議会公式キャラクター

やまびこだよりは、長野県社会福祉協議会のホームページからPDFファイルおよび音訳データとしてダウンロードできます。
http://www.nsyakyo.or.jp

この新聞の発行には、みなさんの赤い羽根共同募金が役立てられています。